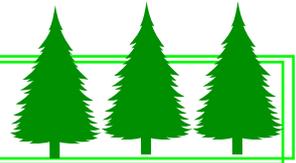




みつぎ便り



第189号 6月号 令和4年6月1日発行 http://itbs-ecopo.jp/environsurvey_report

板橋区役所南部土木サービスセンターの花づくりグループとエコポリスセンターのかんきょう観察員地域自主活動グループに所属しているボランティア団体「見次の会」です



タイリクバラタナゴ

日本のタナゴの種類は、二十種類ほどあります。このタナゴは外来種で、名のとおり東南アジア、台湾などからほかの外来の魚に紛れ入って来たものと考えられます。

オスは、体が側扁で体高が高く、繁殖期には婚姻色で銀色に虹の様に大変美しい色になり、目は赤い色になる。その姿が薔薇のように見えることからこの名前が付いたといわれます。

一方でメスの方は、オスに比べる

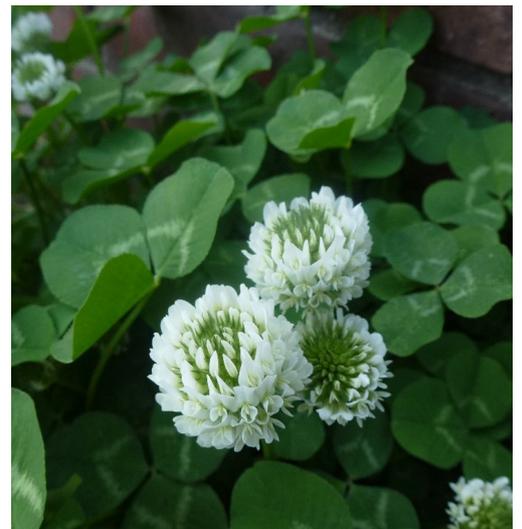
とやや小型で、地味な体色をしています。体長は5cm〜10cm程度で、在来種の「ニッポンバラタナゴ」と酷似していますが、この「タイリクバラタナゴ」の方がやや大きめです。いくつかの違いである程度判別できるようです。例えば、オスの腹鰭の前縁に白色がある等です。

タイリクバラタナゴが原因で在来のタナゴが絶滅危惧種に指定されており、要注意種として扱われております。難しい問題です。
(圭)

シロクローバー

野原のように開けた空き地で見かけるシロクローバー（白詰草）ですが、見次公園でも白い花を咲かせています。一つの丸い花に見えますが十から八十個の小さな花の集まりです。花茎は葉の柄より高く、葉がありません。その特徴を生かし、花冠や花輪を作って遊んだ方もいると思います。

葉は柄を伸ばし、その先に小葉を三枚つけます。四枚さらに五枚、六枚と小葉をつけることもあるそうです。



す。小葉の数が多く葉は、踏まれるなどして成長点が傷つき、変異した奇形とのこと。また、光合成がよりできるようにするためということもあるそうです。

原産地はヨーロッパで、明治以降牧草地用として輸入されました。持ち前の繁殖力の強さで、今では日本各地で見られます。地力向上植物として果樹園の下草としても使われます。

見次公園では、二か所で自生しています。踏まれてもくじけず繁殖していくシロクローバー。今後、どのくらい茎を伸ばし、広がっていくか楽しみです。
(敦)